

今回、念願だった英検 1 級に合格することができました。中学校で英語を習い始めて 30 年余り、ハイツセンターに通い始めて 6 年、ようやくたどり着いたという感じです。これもハイツセンターの先生方のお陰です。本当にありがとうございました。

合格をお知らせした後、辰口先生から、合格体験記のようなものを書いてほしいと言われました。その時はうれしさもあって喜んでお受けしたのですが、40 半ばのおじさんが、どうにかこうにか合格したという次第なので、あまり 1 級を目指している方の役には立たないかもしれません。まあ、それでも何かの参考になれば・・・との思いで、私の体験を書いてみたいと思います。

#### ◇ハイツセンターに通う以前の話①：TOEIC ハイスコアを目指して

私は、学生時代は英語が苦手で、中学の時に英検 4 級を取って以来、会社に入るまで英語の資格とは無縁でした。当然ながら、英会話の勉強も特にしていませんでしたが、社会人になって、英語くらいは身に付けておかないと・・・と思い、英会話教室に通い始めました。具体名は避けますが、駅前にあるような大手の学校ですね。6,7 年くらい通って、お金も相当に使いましたが、TOEIC600～700 点くらいで停滞していました。英会話教室に行くだけだったので、リスニングの成績は上がるんですけど、文法が駄目だったんですよ。長文も時間かかってしまうし。それで、TOEIC の文法の問題集を 1 冊、数か月かけて勉強して、何とか 800 点くらいとれるようになったのが 30 代半ばだったと思います。

その後、機会があって 1 年ほどカナダに住むことになりました。良く海外勤務の目安は TOEIC750～800 点台など言われますが、経験者の方はわかると思いますが、800 点程度では、正直全く歯が立ちません。しばらくはハンバーガー 1 個買うのにも苦勞する生活だったのを覚えています。それでも 1 年暮らして、それなりに意思疎通ができるようになって 2007 年に帰国した直後に、TOEIC を受けて 920 点取りました。そこまでスコアが上がってくると、次の目標が欲しくなり、今度は英検にチャレンジすることにしました。(ちなみに、それ以降 TOEIC は受けていません・・・)

#### ◇ハイツセンターに通う以前の話②：英検準 1 級合格～1 級受験

それで、2008 年に準 1 級を受験して、特別な勉強はしなかったと思いますが、1 回で合格することができました。2 次の面接は相当に怪しかったのですが、試験官の先生も日本人でしたし、まあ、何とかなつたという感じです。それで、勢いによって次の回に 1 級を受験することにしました。

まずは過去問題集を買ってみたのですが、最初の単語の問題で驚きました。準 1 級を持ち、TOEIC も 900 点以上ある私が、全く見たこともないような単語ばかりなのです。4 択問題なので、半分くらいに絞りたいと思っても、1 つも意味が分からないので、絞りようがない・・・。「でる単」のような単語集を購入してみたものの、1000～2000 語くらいの単語を一から覚えなくてはならないと思うとうんざりしてしまって、全くモチベーションが

上らず仕舞い。準備不足のままの初受験は、1次試験であえなく玉砕しました。当時は、「準1級とレベルが違いすぎる！ TOEIC900点保持者が全く歯が立たないような単語なんて出すな！」などと自分の英語力の無さを棚に上げて、妻に不満を漏らしていたことを覚えています。

◇江別に転勤。ハイツセンターに通い始める。

その後1級を受験する気力がなえたまま、2009年に当時住んでいた兵庫県から、江別市に転勤してきました。暫く英語から離れていたのですが、2010年になって、急に仕事で英語でのプレゼンをすることになってしまいました。そこで、慌ててブラッシュアップのために英会話教室をさがし、たまたまホームページに惹かれて見学に行ったのが、ハイツセンターとの出会いでした。短期に練習できればということで、プライベートコースでスタートしたのですが、以前通っていた大手教室と比べて料金が安くて、辰口先生に「この料金でほんとにいいんですか？」と聞いてしまったほどでした。その後、プレゼンは何とか終わったのですが、「もう少し英語を上達させたいなあ」と思って、通い続けることになりました。勉強するにあたって、目標が必要なので、「英検1級」としましたが、難しいのは重々承知していたので、当初はそれほど本気ではなかったと思います。

◇仕事が忙しく、中々通えなかった停滞期を経て、山口先生の授業を勧められる

通い始めてから3年くらいは、ネイティブの先生（Ian先生、お元気ですか？）とプライベートやグループレッスンで会話を中心に授業を受けていました。けれども、当時仕事が忙しい時期で、中々ハイツに通えず、おそらく月の半分くらいは欠席していたんじゃないかと思います。そんな状況でしたから、英語の勉強も進まず、自分でも英語のスキルが停滞しているのを感じていました。

そんな状態が続くうちに「このままだったら続けていても駄目だ。本気で英検1級を目指そう！」と思うようになりました。仕事やプライベートで色々思うところが出てきたのも背景にあったかも知れません。それで、2012年の年末ごろに、辰口先生に「英検1級を取りたいのですが、このままだと難しいので、授業のやり方を変えたいのです」と相談しました。その時に勧めていただいたのが、山口先生の英検対策授業でした。後で伺ったのですが、ハイツとしても英検1級を目指す定期の生徒さんは初めてのケースだったそうで、辰口先生も色々模索されていたようです。（本当にありがとうございます！）ハイツの良いところは、このように生徒さん個人個人の希望に、できる限り応えてアレンジしてくださるところですね。

◇山口先生の英検対策授業① 合格への指針

そんな経緯で、2013年の1月から山口先生の英検対策授業を受けることになりました。先生は、何人もの英検受験者を合格させている方で、物腰が穏やかで、スマートな英語研

究者といった趣きですが、授業は濃密で相当ハードでした。初めの授業で、英検 1 級試験の内容について解説がありました。ライティング試験は、語彙が 25 問、長文穴埋めが 6 問、長文読解が 10 問、英作文 (200 語程度) が 1 問から構成されているのですが、語彙の内 21 問をしめる単語の問題の比重が高く、ここで 7 割くらい正答しないと合格はおぼつかない、と言われました。一方 4 問を占める熟語については、出題傾向が掴み難い上に、問題数も少ないので捨てましょうと。長文穴埋め、読解は全問正解を目指すものの、時間が少ないので速読を心がけること。英作文は、文法、構成も大事ですが、量が重要なので、200 語± 20 語程度にするように・・・といった感じです。書店に売っている教本は、1 級クラスになると、「どの分野も高度なレベルが要求されるのでしっかり学習しましょう」、程度の総花的な解説しか書かれていないことが多かったのですが、はっきりとした指針を示していただいて、もやもやとしていた目標が、非常に具体的になりました。この指針を基にして、授業が始まることになりました。

#### ◇山口先生の英検対策授業② 語彙力アップへの取り組み

まず、語彙力のアップが必須ということで、A4 用紙 20 ページくらい、1500 字以上からなる単語リストを渡されました。これは先生が独自に過去問題から抜き出されたもので、単語の意味、例文や対語、類語まで記載されている優れたものです。(後に拡充されて 2000 字以上になりましたが) 巷に色々単語集が売られていますが、範囲や充実度から言って比較にならないと思います。そのリストから、毎週 2 ページ分、単語数で約 80 語の中から 20 問テストを出すので、暗記してくるよう言われました。英単語の暗記なんて、大学受験以来で、憶えられるだろうかと不安になる反面、学生に戻った気分です。少しワクワクしたのも憶えています。

土曜日 14 時から 15 時までの 1 時間の授業はこんな感じで進みました。初めに英単語 20 問の小テスト。続いて翌週に出題されるページの単語に関する山口先生の解説。最後に、事前に渡された過去問の宿題 (単語あるいは長文問題) の答え合わせと解説。

私にとっては単語小テスト対策の暗記と、宿題をこなすのが大変でした。単語については、先生からいただいた単語リストは、暗記をするにはそのままでは扱い難いので、カード式の単語帳に書き写すことから始めました。今は、スマホで便利なアプリがあるので、日曜日に 80 語ずつアプリに書き写し、翌週の金曜日の夜から土曜日の午前中を使って丸暗記する、ということを毎週やっていました。本当は、ウィークデーも使って少しずつ憶えた方が良かったのですが、切羽詰らないとやらない私の悪いくせで、毎週毎週 1 夜漬けも良いところでした。どうにかテストは満点を略毎週取ることができていましたが、次の週には相当忘れてしまっていたでしょうね。この辺は今でも反省点です。今から思えば毎週毎週、山口先生は私の為に問題を作ってくさっていたのですから、本当に頭が下がります。

過去問の宿題は、日曜日にやるようにしていました。単語問題の場合は、先ず何も見な

いでトライして、答えあわせをした後に、正答以外の単語も含めて意味をチェックしました。最初の頃は×ばかりで、がっかりすることしきりでした。授業での答え合わせでは、出てくる単語について、先生から突然「この単語と同じ意味の言葉は？」と振られることがあります。以前にやっているはずの単語なのに、中々思い出せなくて、ここでもがっかりすることばかりでした。

#### ◇山口先生の英検対策授業③ 長文読解とライティング

過去問の宿題でも長文問題は、問題となっている記事の内容が面白くて、結構好きでした。こちらも、はじめは何も見ないで問題を解き、答え合わせの際に分からなかった単語の意味をチェックするというスタイルでこなしていました。当時は、あまり時間を気にしないでじっくり読んでいましたが、実際のテストは、かなり時間が短いので、もう少し速読、ななめ読みを意識して取り組んだ方が良かったかもしれません。この辺は反省点ですね。授業では、しっかりと予習していたので、長文に関してはうまく出来ていたと思います。ただ、山口先生は、同じ問題に対して、私の何倍も書き込みをされていて、授業に臨まれる姿勢には、敬服することしきりでした。

英作文については、私の苦手な分野で、過去に受けた 1 級のテストでも、周りの人は解答用紙を丸々埋めているようなのに、私は半分くらいしか埋まらず、文法、構成もぐちゃぐちゃといった有様でした。授業では、特にライティングの時間は設けていないので、不安があることを山口先生に相談したところ、過去問のトピックについて、エッセイを書いて来れば添削していただけることになりました。その際の注意点はこんな感じでした。

1) 200±20 字程度を目安に書くこと。1 級英作文は指定されたトピックに関するエッセイを 200 字程度書くことになっていますが、多すぎても、少なすぎても駄目で、200±20 字程度になることが重要だそうです。感覚的には、解答用紙が略埋まるくらいですね。

2) 前文+本論①+本論②+本論③+結語の 5 段構成とし、キーワードを各本論に配置すること。試験会場で文章構成について悩まないように、前文～**Firstly**～**Secondly**～**Finally**～結論といったパターンをあらかじめ作っておくことと言われました。また、1 級英作文は指定されたキーワードの内 3 つを選んで文章中に入れることが求められますが、それぞれのキーワードを各本論に配置して、偏りの無いようにした方が良いでしょう。

このような注意点のもと、なるべく毎週、1 つのトピックについてエッセイを書いて提出するようにしていました。これについて、山口先生は翌週には真っ赤に添削して返してくださいました。お忙しい中、時間を割いていただいて本当に感謝しています。さて、実際のテストでは、英作文に充てられる時間は 25 分～30 分程度なのですが、私は 1 時間以上かけてこの英作文の宿題をやっていました。今から思えば、真面目にトピックのことを考えすぎて、より高度な内容を表現しようとしたり、論旨の構成を難しく考えすぎたりして、時間のことを考慮していなかったように思います。こちらについても普段から時間の感覚を意識すべきだったと反省しています。

#### ◇リスニングについて

英検 1 級には当然ながらリスニングテストもあります。山口先生の授業では、直前対策で過去問をやった以外は、特に対策は設けず、各自でリスニングスキルを磨くように言われていました。私の場合は、VOA の通常放送をなるべく毎日聞くようにしています。最近ではスマホで簡単に聞けるので便利ですよ。ヘッドラインくらいしか理解できないことも多いですが、中身が判った日はうれしいものです。また、これも長年続けていますが、NHK の「実践ビジネス英語」を欠かさず聞くようにしています。今はネットでストリーミング放送してくれるので、好きな時間に聞いて便利ですね。さらに、最近では Kim 先生に教えてもらった sitcom の「How I met your mother」をサブタイトルつきですが時々見えています。リスニングは格段に向上している、といった感覚は正直中々得られないのですが、毎日少しずつでも英語の音に触れる努力はするようにしていましたし、今後もしたいと思っています。

#### ◇英検 1 級を受験したいができないジレンマ・・・1 次合格するまで

こんな感じの英検対策の日々が 1 年くらい経過して、2014 年になって、そろそろ受験しようかとなりましたが、14 年度第 1 回、第 2 回とも 8000 円ほどの受験料を払って申し込みながらも、日曜日の受験日に外せない仕事が入ってしまい、受験することすらできない羽目に陥ってしまいました。合格する自信は全くなかったのですが、お金がもったいなくてジリジリしていたのを覚えています。ようやく 2015 年の 1 月になって 14 年度第 3 回検定は受験することができました。まず、筆記です。語彙については努力の甲斐あって 7 割くらい取れました。読解は 8 割～9 割は取れる自信があったのですが、問題が結構複雑で、時間ない中でのななめ読みに失敗してしまい、こちらも 7 割。時間を意識した速読トレーニングをしておくべきだったと反省です。リスニングは前半は略満点で、後半のロングインタビューは、あまり良くわからなかったのですが、全体で 8 割弱取れていました。1 級の合格ラインは大体 7 割正解といわれていますから、英作文次第といった状況でしたが、当日は焦ってしまって、あまり良い文章が書けませんでした。どうにか教えを守って 200 字くらい書いたのですが、まったく自信がなく、先生方にも「英作文次第ですけど、駄目だったと思う。」と報告していました。そして発表日・・・1 次合格でした！ 合格点が 77 点に対して私のスコアは 78 点。まあギリギリもいいところでしたが、合格は合格です。英作文が、6 割くらいしか点数いただけていなかったのと、得意の読解で点を伸ばせなかったのが痛かったのですが、合格できて本当にうれしかったです。先生方にも喜んでいただきました。後は 2 次の面接を通れば・・・なのですが、ここからまた苦闘の日々が始まります。

#### ◇英検 2 次 こんなに難しいとは・・・

英検 1 級の 2 次試験には 1 次免除という制度があって、1 次合格した者は、1 年間 1 次試験が免除される権利があります。私の場合、14 年度第 3 回、15 年度第 1、2、3 回と合計 4

回 2 次試験を 1 次免除で受験することができます。1 次試験に合格するまで、2 次の対策は全くやっておらず、合格から 1 月後の 2 次試験はあえなく玉砕したものの、後 3 回受験できるので、心の中では「まあ、何とかなるだろう」と思っていました・・・これが甘かった。

英検 1 級の 2 次面接は、こんな感じで進みます。入室すると試験官の先生が二人。日本人と外国人の先生お一人ずつです。簡単な自己紹介の後、5 つのトピックが書かれたカードを渡されます。1 分間の時間をもらって、その中の 1 つを選び、2 分間のスピーチ。その後 3 から 4 分間の質疑応答があって終わりです。私は、結構人見知りなタイプで、人前でのスピーチなども緊張してしまって、日本語ですらうまく話せない方なのですが、その場で与えられたトピックについて、1 分間の内にどれを話すか選び、内容を構成し、2 分間英語でスピーチするのですから、私にとっては相当にハードな内容です。

1 次試験に合格した後、山口先生の授業は卒業ということで、Kim 先生と Warren 先生の会話のプライベートレッスンに移って、2 次試験の準備をすることになりました。ただ、授業が火曜日の夜 8 時からだったのですが、仕事の都合で行けないことも多く、中々練習が進みませんでした。授業は、その日あった出来事を簡単に話した後、スピーチの練習を 1 ~2 問くらいやるといったスタイルでしたが、ハイツの先生に対してできえも、スピーチでは緊張してしまって、しどろもどろの内に 2 分が終わってしまうような状態でした。練習中は汗をかきまくりで、その状態も恥ずかしいやら、自己嫌悪やらで、先生方とのフリートークが盛り上がると、心のどこかで「スピーチの練習時間が短くなる。ラッキー」と思っていました・・・

どうも私の悪い癖で、目標の大変さが分かっているくせに、切羽詰まる直前まで何とかなると思ってしまうところがあり、先ほど述べたような練習状態を続け、結局、15 年度の第 1 回、2 回とも不合格という有様でした。採点表を見ると、質疑応答はまあまあなんですけど、スピーチが合格点に全く足りていないんですね。「スピーチなんて日本語でも難しいのに、英語でなんかできるか〜い！」と、努力不足を棚に上げて、またもや妻に愚痴をこぼしておりました。

#### ◇ちょっと脱線： 異文化交流について

Kim 先生と Warren 先生の話が出たので、ちょっと脱線して異文化交流の話をしたと思います。ハイツの生徒さんをご存知と思いますが、Kim 先生はフィリピン、Warren 先生はアイルランドのご出身ということで、アメリカ、イングランドといった英語から思い起こされる国々とは少し違います。英語を学んでよかったと思うのは、英語という 1 つの言語によって、こういった様々な国の方々とコミュニケーションが取れることです。深く会話ができるようになると、外国の方と言いながら、中身は我々と全く変わらないということも良く分かります。Kim 先生なんて、日本のアニメや漫画が大好きで、私なんかよりよっぽど詳しいです。ちょっと話を振ったら、いくらでも楽しそうに話をしてくれますよ(笑)。

一方で、日本軍が太平洋戦争時にフィリピンの人々に強制労働のようなことをさせていた事、それをフィリピンでは授業できちんと教えていることも Kim 先生から知りました。(皆さん、ご存知ですか?) 先日、天皇陛下がフィリピンをご訪問されて、歓待を受けておられました。そういう背景を知ったうえで、ニュースを見ると感慨深いものがあります。こういったことって、人間同士が触れ合わないと、中々理解できないものですよ。英語を学ぶ、異文化を学ぶって、素晴らしいことなんだなあと、改めて思ったりします。

## ◇2 次試験合格に向けて

1 次試験免除があと一回、16 年 2 月の試験がラストチャンスとなり、さすがに「これはまずい。これまでのやり方では駄目だ」と思い、なぜ不合格となったのか考えてみました。先ほども書きましたが、私の場合、質疑応答はそんなに悪くはなかったのですが、スピーチがメタメタなのが原因でした。一応、過去問のスピーチ解答例なども目を通したりしていたのですが、試験官の先生を前にすると、頭が真っ白になってしまって、トピックを選びスピーチの構成を考える 1 分間、何も浮かばないまま過ぎてしまう。これではきちんとしたスピーチができるはずないですよ。本番で瞬時にスピーチを構成するのは略不可能だと自覚したので、できる限りパターンを準備することにしました。この時点で 15 年の 12 月です。

まず、2008 年～2014 年の過去問から、出題されたトピックをすべて抽出し、テーマ別に分類しました。そこから、なるべく毎日、早朝に 30 分くらいかけて、そのトピックに関するエッセイを書くことにしました。始めの内は、過去問のモデルスピーチを参考にしていたのですが、英作文と同様に 5 段構成になっていて長く、あのような完璧なスピーチを 1 分間で構成して、2 分間で話しきれるはずが無いことに気づきました。そこで、アマゾンなんかで調べて、小林蒔子さんという方が出されている「英検 1 級二次対策」という本が評判が良いので購入し、参考にすることにしました。そこで、書かれていたのは、過去問モデルスピーチは長すぎて、受験者には役に立たないこと、5 段構成は長く、精々 4 段構成にすることということでした。序論～本論①～本論②～結論といった構成ですね。

12 月くらいから、朝 1 日 1 題を目標に、この 4 段構成でエッセイを書き、火曜日の授業の時にまとめて提出して、山口先生に添削していただくということを始めました。授業では、スピーチの練習を繰り返していましたが、準備してあったトピックについては比較的話せるのですが、準備していないものはしどろもどろで 2 分をオーバーしてしまうことが多く、焦りと不安がつのっていました。そこで、準備したパターンをできるだけ頭に叩き込むしかないと思い、最後の 2 週間くらいは、毎朝、準備した原稿を口に出して、体に覚えこませようと試みました。そこで、気づいたのは、原稿を見ずにスピーチしようとする、2 分間思ったよりも早く過ぎてしまうことでした。準備していた原稿は大体 180 字程度だったのですが、それを思い出しながら話そうとすると、2 分間をオーバーしてしまうので、さらに削って、全ての原稿を 160 字くらいに改定することにしました。160 字だと練

習では 2 分を切ってしまうし、内容的にも薄っぺらい感じが否めないのですが、本番は緊張してしまうだろうし、まずは、2 分間でスピーチをまとめることが大事だ、と思うこととして練習していました。このように書くと、1 日何時間もストイックに練習していたと思われるかも知れませんが、社会人なので、そんなに時間が取れるわけもなく、朝の 30~1 時間くらいを充てるイメージです。仕事が遅かった時や、飲み会の翌日などは当然練習できないのですが、その辺はあまり気にせず、3 日くらい間が空いてしまっても、とにかく練習を続けることを心がけていました。

#### ◇受験申込でドラマが・・・

受験の申し込みでもドラマがありました。第 3 回検定の申し込み締め切りは 12 月 22 日だったのですが、試験日が 2 月だったので、私はてっきり年明け早々の締め切りだろうと思いついていました。12 月 23 日の祝日に、たまたま仕事で夜に勤務することになり、21 時ごろに、本当にたまたま、「そういえば英検の申し込み、少し早いけどやっておこうかな・・・」という軽い気持ちで、英検のサイトを覗いてみたら、「申し込みは 12 月 22 日で終了しています」との文字。目の前が真っ暗になりました。もう一度見てみると、小さい赤い字で、「Web 申し込みは 12 月 23 日 22 時まで延長します。」と書いてあるではありませんか！ 現在 21 時 10 分。申し込みには、1 次合格時の番号が必要なので、妻にあわてて電話して調べてもらい、何とか出願を終えたのが、21 時 40 分ごろでした。何ともお恥ずかしい話ですが、ホッとしたのと同時に、「これは、神様のおぼしめしで、今回はうまく行くかも・・・」「このチャンスを生かさないと嘘だな」と思いました。でも本当にラッキーでした。結局合格したのですから、こんなことってあるんですね。

#### ◇2 次試験合格！

16 年 2 月 21 日、2 次試験当日を迎えました。14 時の集合だったのですが、雪が多いとの予報もあって、13 時ごろには会場に入ってしまった。この時、読んでいた日本語の小説が面白くて、スピーチの見直しをすればよいものを、読みふけてしまいました。緊張感無いですが、それが良かったのかもしれない。1 級の受験者は少ないので、20 人くらい入れる教室に 10 人くらいが待機します。大体いつも一緒ですが、20-40 代くらいの女性が半分くらい、私のような社会人男性が 3 人くらい、学生さんが 2-3 人といった構成でした。そうやって待機しているところに、小学校 3 年生くらいの男の子が、お母さんに連れられて入ってきました。どうやら 2 次試験を受ける様子。狭い待機所がちょっとざわめきました。まあ、帰国子女であれば、英語力としては申し分ないのでしょうが、1 次試験の長文などは中身も相当高度で、とても小学生が理解できる内容ではないと思うのですが・・・合格しているということですよ。「世の中には天才というものも居るもんだなあ」と思いながら待っていたら、緊張することを忘れていました。これも今にして思えば良かったでした。



私の番になり、面接会場に入りました。もう4回目であり、1級の面接官の先生も少ないようで、過去に試験していただいた先生方でした。これにも緊張がほぐれました。自己紹介では少し長めのやり取りで、会話が弾みました。これはプラス点。問題のスピーチです。試験官の先生から、トピックが書いたカードが渡されました。1番目に書いてあったのが、「国連は改革が必要か？」というものでした。このテーマは直接練習したことはなかったのですが、国際紛争絡みはいくつかエッセイを書いていたので、何とかなるように思えました。このテーマに決めて、スピーチ開始。大国が国連の安保理を牛耳っていること（常任理事国が思い出せなかったのも）、そのパワーバランスのため現在の国連は何も決められず、テロリストなど国際紛争に全く役に立っておらず、改革しないと駄目、といった論旨で、途中しどろもどろになりながらも、何とか2分間で納めることができました。その後の質疑応答は、先生方のリードもあって、話が弾んだように思えました。補助員の方の声に、先生が気づかず、少し時間オーバーして、お話することができました。この辺もラッキーだったように思います。こうして2次試験が終了しました。拙い英語であることは間違いなく、合格点に達したかどうかは、全く自信がありませんでしたが、少なくとも今までの中で一番良かったことは確かでした。

合格発表は3月1日15時～Web上で行われました。仕事だったのですが、14時くらいからソワソワしてしまって、Webをチェックしていました。ただ、今回1次免除のラストチャンスだったのですが、発表を見る前に、妻には「今回駄目でも、また1次から受け直して合格するまで続けるから」と宣言していました。そういう意味では、ソワソワしながらも、どこか落ち着いた心境ではありました。まあ、7割方駄目だとは思っていたんですよね。15時になりWebをチェック・・・合格でした！合格点が60点のところ63点。1次に続き、2次も合格点ギリギリでしたけど。

工作中でもあり、また、英検にチャレンジしていることは社内では内緒だったので、大っぴらに喜ぶことはできなかったのですが、本当にうれしかったです。妻や両親、辰口先生などに、メールや電話でお知らせしましたが、皆さん喜んでくれました。3月1日は火曜日で授業の日だったので、ハイツに行って直接ご報告もしましたね。先生方の喜ぶ顔を見て、本当によかったなあとしみじみ思いました。

#### ◇英検を終えてのまとめと、今後

3月7日に合格証書が届いて、ハイツの先生方と記念写真を撮らせていただきました。(Facebookに掲載されています。) 山口先生にも改めて、ご報告とお礼を申し上げますこともできました。こんなにも長かった1級合格までの道のりを終えて、1級を目指されている方にアドバイスするとしたら、次のようなことかなあとと思います。

##### ① 試験の内容をよく把握すること

基本的なことですが、どのような問題が出て、配点の傾向や、時間配分といった試験の中身について十分に把握して、対策を立てるということですよね。でも、英検1級の

場合、書店に売られている本などでは、具体的な情報があまりないので、私も含めて苦労するのですよね。

② 内容を把握した上で、自分の得意不得意に合わせて、対策を立て実行すること

これも当たり前のことですね。私でいえば、語彙力アップの練習と、英作文、スピーチの練習、といったことになるでしょうか。こちらも独自でやるのは、相当ハードル高いですよね。私は恥ずかしがり屋で、スピーチを他の方に聞いていただいたり、録音したスピーチを自分で聞いたりするのは、顔から火が出るほどなのですが、時間感覚や、自分の足りないところを自覚する為には、絶対に必要なトレーニングで、嫌々ながら何とか乗り越えました。

③ 可能であれば、良い指導者を見つけて、その指導を仰ぐ

私の場合は、正にハイツセンターであり、辰口先生であり、山口先生でした。先ほどの①、②についても、山口先生のご指導に従ったものです。おそらくこれだけの授業を札幌などで受けようと思ったら、相当な費用が掛かるとは思います。ハイツセンターは、こちらが申し訳なくなるくらいの良心的な価格で提供していただいております。このことに関しても改めて感謝しています。

④ 短くても良いので、毎日英語に接する時間をつくる

私の場合は、毎朝の30分～1時間と、土日の午前中が、英語の勉強時間でした。ただ、仕事も家庭もあるので、ストイックに毎日、毎週欠かさずに、という訳ではありません。気が乗らない時や忙しいときは何日も勉強しない時も正直ありました。ですが、間は空いたとしても、何がしか英語に触れることだけは継続していました。もっと短期間で英語をマスターしたいという方には、少し短いかも分からないですが、普通に働いている社会人の方でも、このくらい勉強時間であれば何とかこなせるのではないかなあと思います。少なくとも、英検1級は取れます。

⑤ あきらめない！

最後に、これが一番大事なことだったのですが、「あきらめない」ことです。私の場合、1級取得をあきらめても、誰も文句は言わないですから、何時やめたって良かったのですし、実際、中々合格しなくかったり、仕事が忙しかったりして、英検挑戦をやめようと思ったことは、何度もありますが、結局、「合格するまであきらめなかった、止めなかった」ことが、1級合格の最大の要因だったと思っています。

さて、最大の目標であった英検1級に合格して、今後は・・・というところなのですが、合格したから分かることなのですが、世間が持っている1級保持者に抱いている英語のスキルのイメージと、実際の自分のスキルとの乖離が、あまりにも大きすぎて、今現在戸惑っているところです。本当にこんな実力で英検1級を名乗って良いのでしょうか・・・。相変わらず、英語のニュースや映画は字幕が無いと分からないし、英語の文章だって絶対に辞書が手放せないし、外国の方にとって言いたいことの半分も伝わらない・・・。山口先

生に、合格の報告をしたときに言われました。「おめでとうございます。でも、ようやくこれからが始まりですね。」

ちょっと1級の看板と、実際の実力の差が大きすぎるので、英語の学習はやめられなさそうです。このギャップを少しでも埋める努力をこれからしていきたいと思います。とはいえ勉強の目標は必要なので、先生方のアドバイスをもらいながら、考えていきたいと思っています。また、これまで、忙しいのと人見知りの性格が災いして、ハイツセンターのイベントには、あまり参加してこなかったのですが、これを機会にもう少し積極的に参加していきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

#### ◇最後に

ここまで、ほとんど触れてこなかったですが、一番感謝したいのは、実は妻と息子です。ハイツがいかにも良心的な授業料であるとはいえ、6年間も英語にお金を費やすことを許してくれ、土日のかかりの時間を英語の勉強に使ってしまった、駄目な夫と父親を、大して文句も言わずに応援してくれて、本当に頭が上がりません。1級合格した時には、2人とも本当に喜んでくれて、うれしかったです。この場を借りて、改めて感謝いたします。そして、もう少し勉強続けることを許してね。